

〈令和3年度〉ミライカナエル活動サポート事業 スタート支援コース

団体名	CSF
事業名	スケートボードで自己肯定感を高めYO!
補助金額	200,000円
事業の目的	
生きづらさを抱えている人に対し、スケートボードを通じたつながりを持つことを提案する。具体的には団体からスケートボードを貸し出し、一緒に技術の向上を図る中で少しずつコミュニケーションを取れるようにしていくことや、絵を描いたりステッカーを貼ったりすることで自分だけのボードができます。このような試みをしていく中で、少しずつ人とのつながりを持てるようにし、生きづらさの解消を図る。	
事業の内容と成果・効果	
＜事業の経過と内容＞ 8月・メンバーとイメージ共有するミーティング・リサイクル品の回収・協力店探し。 9月・チラシデザイナー探し・リサイクル品を掃除し、提供を受けた・スケートボードスポット探し 10月・チラシ作り、配布・LINE・Instagram・協力者探し。チラシ配布により、協力者の理解が深まった 11月・市広報ラジオ番組で活動を宣伝・SNS 宣伝。相談者が増え、SNS 登録者増（支援実施には至らず） 12月・利用者、協力者探し。飲食店やカメラマンなど、協力者が増えた 1月・利用者、協力者探し。他団体とイベントの実施を計画（コロナのため中止） 2月・利用者、協力者探し ・当事者ご家族と実施相談 ・他団体と実施相談 3月・当事者ご家族と3月にイベントを計画したが、雨天により5月に延期 ・他団体に実施相談 ・スケートボード専門店に協力依頼 ＜成果・効果＞ 協力者・今後関係性が深まる可能性がある団体等 ・協力飲食店 3店舗 ・協力カメラマン（個人） 3名 ・協力歌手（個人） 2名 ・協力可能性のある団体 2団体 ・協力可能性のある会社 2社 ・協カスケートボード会社 4社	
 	
(写真左) リサイクル品の スケートボードを整備 (写真右) 整備品を活用して 他団体の事業に協力参加 (令和4年4月に実施)	
事業を実施しての課題	
①支援対象者へのアプローチ 生きづらさを抱えている人にどうやってスケートボードを通じた支援を届けて行くか。 ②団体としての運営の難しさ、メンバーと団体理念や事業計画を共有する事や会計事務など、個人ではなく、団体として活動する事にまだ慣れていませんでした。	